

Le Monde de Keishin

CONTENTS

- 2 コラム
「慶進の世界で育つ世界のリーダー」
- 3 「失敗を恐れずに前進する
それが慶進のリーダー」
15期生へのメッセージ
- 4・5 1st Stage | 慶進から飛び出す世界のリーダー
- 6 2nd Stage | 時の人
La Classe de Keishin
- 7 3rd Stage | 大海を知り、見つけた世界との違い
- 8・9 進学羅針盤
- 10・11 同窓生
- 12 La Photo de Keishin
お知らせ
小さな本箱

慶進の世界で育つ世界のリーダー

ALEA IACTA EST

賽は投げられた



慶進の世界で育つ世界のリーダー

「指導者に求められる資質は、次の五つである。知性、説得力、肉体上の耐久力、自己制御の能力、持続する意志。カエサルだけが、このすべてを持っていた」（塩野七生『ローマ人の物語Ⅳ』より）

この記述はイタリアの歴史の教科書にあります。カエサルとは紀元前一世紀の古代ローマの政治家であり、軍人であり文筆家です。「カエサル」を英語読みの「シーザー」と書くこと聞いたことのある人も多いのではないのでしょうか。人間的な魅力に溢れ、多くのローマ人が彼の虜となりました。現在のフランスであるガリアの征服、盟友ポンペイウスとの対決、エジプト女王クレオパトラとのロマンスなど逸話に事欠きません。また、名言を多く残した人物でもありません。シェークスピアが『ジュリアス・シーザー』の劇中で言わせた「ブルータス、お前もか」はあまりにも有名です。「来た、見た、勝った」は東西で引用されています。最も印象に残るのは「賽は投げられた」ではないでしょうか。自らの決意を軍団兵に伝える演説の最後に発せられた言葉です。

アレシアの戦いはそんなカエサルが苦しんだ戦いの一つです。ガリアに遠征して七年目、やっと平定したと思つたガリアの諸部族が一斉にカエサルに反旗を翻したのです。アレシアはその反乱の最後の戦場でした。アレシアの街を包囲するカエサルの軍団は、援軍として集結したガリアの大軍に包囲され、挟撃の危機を迎えます。カエサルは馬にまたがり戦線を駆け巡り、兵を鼓舞し、指揮官に指示を出します。兵や指揮官はカエサルの言葉と姿に勇気づけられ、奮戦します。そして勝利を収め、カエサルはガリア

アを完全に手中に収めるのです。カエサルのリーダーシップが発揮された場面です。

しかし、そこにはもう一人のリーダーがいました。それはガリアの指導者ウエルキンゲトリクスです。当時ガリアの諸部族は統率に欠け、反目し合っていました。まとめ上げるのは並大抵のリーダーシップではかないません。しかしウエルキンゲトリクスはそれをもとめ、カエサルを苦しめました。そんなウエルキンゲトリクスをフランスの人々は、フランス最初の英雄として賞賛します。十九世紀のナポレオン三世はアレシアの戦いのあった場所に彼の彫像を建立しました。

カエサルもウエルキンゲトリクスも時代が求めるリーダーでした。

では、現在の世界で求められるリーダーの資質とは何でしょうか。決断力、判断力、さまざまな資質があげられ、簡単に一言で表せるものではありません。また、多様化した現代ではあらゆる種類のリーダーが求められます。これまで慶進ではそんな世界のリーダーの資質を日々の行事や取組みで育んできました。そして、現在ではそれらの取組みをグローバル・リーダーズ・プログラムとして再編成し、洗練されたプログラムとして実践しています。本号ではそんな世界のリーダーの卵の慶進生が育つ「慶進の世界 Le Monde de Keishin」をお伝えします。

6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間で2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage

基礎学力養成期

中学1年生

中学2年生

2nd Stage

実力充実期

中学3年生

高校1年生

3rd Stage

発展応用期

高校2年生

高校3年生

失敗を恐れずに前進する それが慶進のリーダー

平成三十年二月一日、平成三十年度慶進中学校生徒会長選挙がおこなわれ、13期生原一颯くん(中三)が生徒会長に選出されました。新生徒会長が慶進のリーダーとは何か、新しく慶進の制服に袖を通す15期生、そして在校生に伝えます。

生徒会長 13期生

原 一颯 (中三)



慶進には学校行事がたくさんあります。慶進祭やスポーツフェスティバル、合唱コンクールなど、一年を通して様々な行事が行われるのですが、そんなときに必ず存在するのは「リーダー」と呼ばれる人たちです。

リーダーの主な役割は、集団の行くべき先を示し、向かわせることです。集団を船に例えると、リーダーは灯台です。リーダーがいなければ集団が進まなくなり、集団自体が弱くなってしまいます。だからこそリーダーは集団行動で絶対に欠くことのできない役割なのです。

しかし実際のところ、自分からリーダーになろうとする人は限りなく少ないように感じます。みなさんも過去にそう感じたことはありませんか？これは二つの原因があり、一つは面倒くさいと感じる心理。もう一つは自分が集団をリードすることで人間関係が悪化してしまうことや集団の目線を恐れてしまう心理です。

面倒くさいと思う心理を持つ人は「フォロワーシップ」を持つことから始めてみてはどうでしょう。「フォロワーシップ」とは、リーダーシッ

プの逆で、リーダーや集団行動に協力するという心構えです。この心構えが無いと、集団という船はうまく動かなくなってしまう、灯台としてのリーダーの役割も無意味になってしまうのです。だからこそフォロワーシップもリーダーシップと同じように、集団行動において大切な要素の一つです。

また、人間関係を気にしてリーダーをさけるのなら、これはとてももったいないです。しかし、時には人間関係が悪化してしまうこともあります。そうならないために、まずは集団の話を聞きましよう。リーダーが言ったことに対して、様々な意見、反論が出るのがあります。そのときの態度が重要で、無視などしてしまおう、言った人のプライドを傷つけることになりまう。だからまずは一日話を聞いてみるということをお勧めにしてください。さらに、目線を集団に合わせることも重要です。リーダーとして

意識を持ち過ぎると、発言が上から目線になってしまう。集团一人一人の感情が見え、そのことに配慮した指示もできません。これらのことに気がつけば、きつと指示を出すことができ、かつ集団に好かれるリーダーになれるでしょう。

今回、リーダーにとって大切なことを伝えてきましたが、もちろんそれを知っただけでは意味がありません。よいリーダーとなるためには、たくさんさんの経験をすることが一番です。なぜなら、僕自身何回もリーダーを経験し、失敗をしてきたからです。今回のポイントを意識した上での失敗も起こると思います。必ずそれはいざという時に役に立つよい経験となるでしょう。

ぜひ、失敗を恐れずにどんどん前に出てリーダーとなる経験を沢山積んでください。応援しています。

● 15期生へのメッセージ ●

中学校 1 年 1 組 担任

笹川 剛

教科：数学

教科の好きなところ

勉強すればするほど、解答や考え方人間性が現れるところ

一人ではできないことは
みんなでやってみましよう。



中学校 1 年 2 組 担任

森 拓馬

教科：社会

教科の好きなところ

考古学(特に旧石器～古墳時代)

失敗を恐れずに！
行動あるのみです。



中学校 1 年 3 組 担任

河村 真二

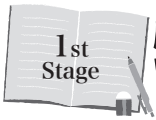
教科：国語

教科の好きなところ

時代・場所を超えて他者と
交流できるところ

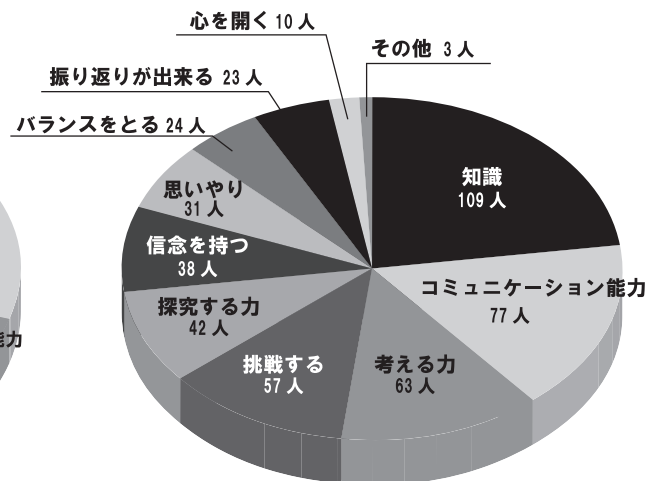
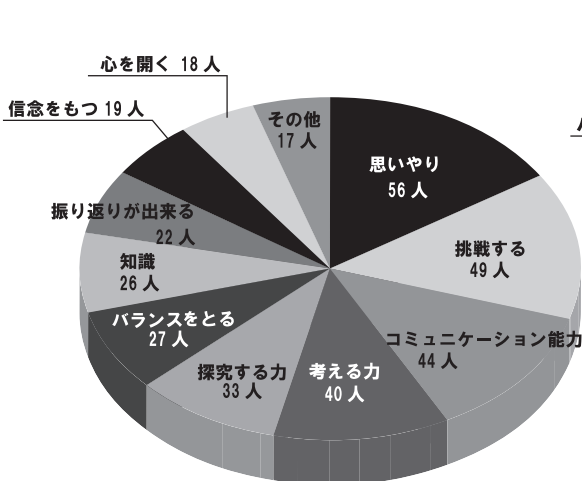
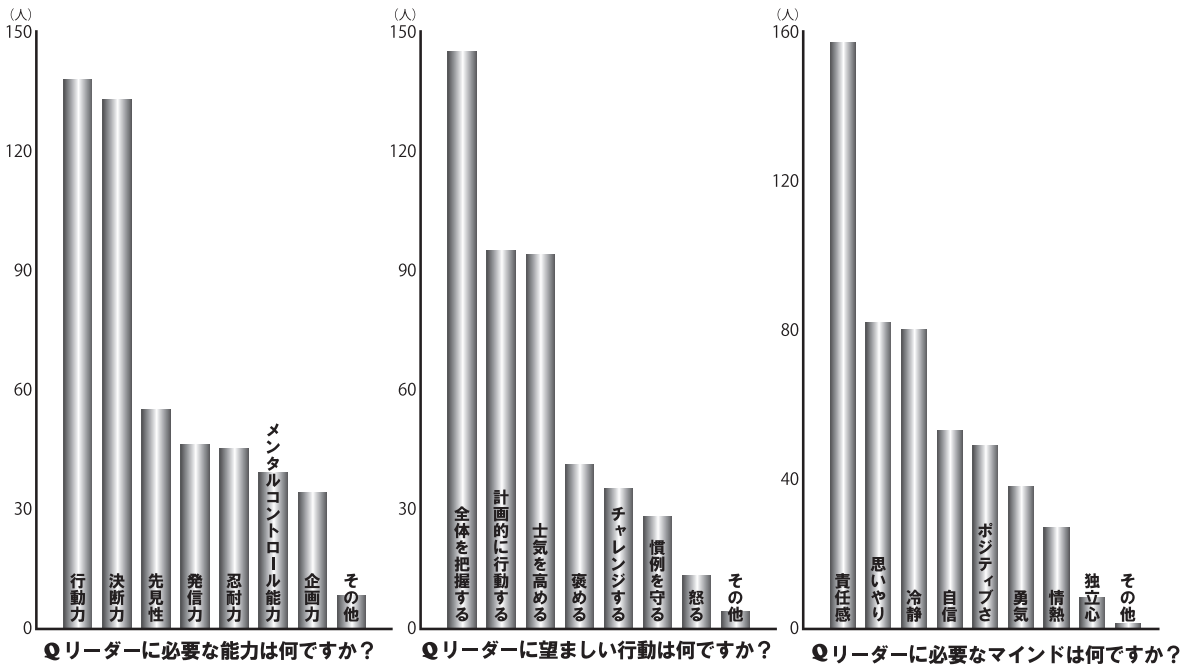
「ことば」を大切にして、
充実した学校生活を共に
歩んでいこう！





特集:慶進から飛び出す世界のリーダー

イタリアの歴史の教科書には指導者の資質が書かれています。しかし、めまぐるしく変化する現代社会において活躍するリーダーには何が必要とされるのでしょうか。これから世界のリーダーとなる慶進生 203 名にリーダーに必要な資質などを聞いてみました。



Q あなたにある資質は何ですか？

Q 慶進で身につけたい資質は何ですか？

Q あなたが考えるリーダーと思える人物を教えてください

徳川家康

織田信長

毛利元就

吉田松陰

長嶋茂雄

松岡修造

ビートたけし

大野智（嵐）

ビル・ゲイツ

スティーブ・ジョブズ

ナポレオン

同級生

以上、慶進生に聞いたリーダー像ですが、みなさんいかがでしたか？

アンケートの結果をみると慶進生一人ひとりが具体的なリーダー像を持っていることが分かります。何より嬉しい結果だったのは、最後の質問で多くの人が同級生や先輩の名前を挙げたことです。身近な人物にリーダーの資質を感じ、切磋琢磨し、成長し、自らリーダーとなる慶進生の姿が見えました。

先輩に聞いてみよう

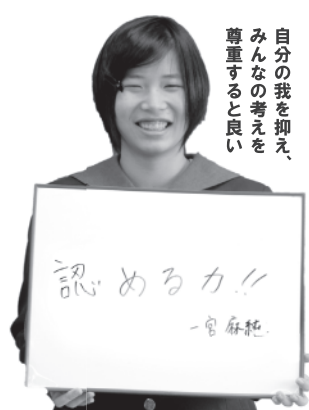
経験を重ねた先輩たちは何がリーダーに必要な資質と考えているのでしょうか。生徒会長を経験した10期生中村龍一郎くん（高三）、11期生林裕子さん（高二）、12期生一宮麻純さん（高一）に聞いてみました。



一人では何もできない
みんなと仕事を
分け合うことが大事



こなすのではなく、
情熱を持って
みんなを取り組むから
いいものができる



自分の我を抑え、
みんなの考えを
尊重すると良い

美術

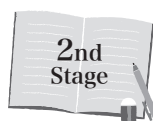
教科のコラム

美術の授業は、小学生のときにあった図画工作とは少し異なるところがあります。まず、工作の要素が減ります。そして、自分の考えや気持ちを表現するという点では同じですが、より上手に表現するために、図法や絵の歴史など他にも色々なことを学びます。

教科書や資料で学ぶことも大切だと思いますが、私が一番重要に思っているのは「鑑賞」です。授業では、作品を制作したあとに、机に自分の作品を置いて教室をまわることがあります。これは、自分の作品を見てもらうと同時に、クラスメイトの作品を見ることがもできます。クラスメイトの作品を鑑賞すること、「こんな風な色の使い方があったんだ」「この形がこれを表現しているんだな」という気づきがたくさんあります。また、自分の作品にも人からたくさんのお褒めをもらえることで学びがより深まります。人の作品を見ることがとても楽しいですし、時には自分では考えつかなかったようなアイデアに出会うこともあるので、鑑賞はやはりとても重要だと私は思います。

美術の授業は自分を表現する方法をより知ることができるとても楽しい授業です。

13期生 吉松 響(中三)



時の人

慶進では多くの慶進生が自分の将来に向けて輝いています。この「時の人」のコーナーではそんな輝く慶進生を取り上げていきます。今回は、「最強の威嚇」について修了論文を書いた12期生新見海人くん(高二)、「サイコパス」精神異常者たち」を発表した11期生内山絢登くん(高二)、久我俊介くん(高二)を紹介しましょう。

修了論文…最強の威嚇

僕は今回「最強の威嚇」という題目で修了論文を書きました。

最強の威嚇というものは、ただの威嚇ではなく、人間が動物にする威嚇というものです。僕は普通のこと

がしたくはありませんでした。人間が動物にむかつてする威嚇というものは見たことも聞いたこともなかった

ので、この題目が頭に浮かんだ時は「これだ!!」と思いました。はじめのうちは、自分の中でこの題目はとも気に入っていたので文章を書くのがとても楽しかったです。自分は、一つのものに集中して取り組めるタイプではないのですがその中でもがんばって書き上げました。

パワーポイントを使ったプレゼン作りの作業も集中が切れそうになり、楽な方へと流されそうになる中、自



分にムチを入れながらなんとか自分の満足いくものを作りあげました。

三月十九日の発表の日では凄い人達の中で発表を行いました。僕が発表を聞いていて、僕よりも格段にすごいと思う発表の人がいる中で自分の名前が呼ばれた時は、本当に自分でいいのかなと思いました。でも、時がたち今はちゃんと受け止めています。

今回の経験を通して変わったことは、平凡だと思っていた自分でもやればできるということです。だから今はこのことが自分の自信にとてもなっています。この自信を使って新たなことに挑戦しようと自分を強くして最強の自分へと近づいていきたいです。

12期生 新見海人(高二)

テーマ発表会…金賞「サイコパス」精神異常者達

今回のテーマ発表会で、相手の内山君と一緒に取り組んだ「サイコパス」精神異常者達」というテーマで、金賞をとることができました。

振り返ってみて感じたことが二つあります。一つ目は、準備の大変さです。病因の分かっているサイコパスについて考察をしたり、パワーポイントをどのように構成すれば

伝わりやすいかなど、工夫するのには苦労しました。二つ目は、極度の緊張です。自分としても緊張しやすいため同級生しかいないリハサルです。緊張していたのに、本番では想像以上の人が来ていたのでさらに緊張してしゃべれなくなっていました。

最後に、これら二点以外にも思うことはありますが、結果よければ全てよしです。

(久我)

僕たちのテーマ「サイコパス」についてですが、近年急速に広まったこの言葉、みなさんの中にもご存知の方が多いと思います。精神病質者を意味するこの「サイコパス」という言葉に皆さんが持っている印象はネットやアニメの影響で「怖い」といったもの



11期生 内山絢登(高二)

11期生 久我俊介(高二)

La Classe de Keishin

英会話

「Keishin's Strength」

デリック・ラモント・ニコルズ

This was a year of firsts for me here at Keishin: It was my first year teaching full time, the first year trying many of my lessons, and the first year that I could truly interact with and get to know some of my students. I have to say, they did not disappoint me! With almost 430 students, both juniors and seniors, from the Global, Advanced, and Integrated Courses, trying to teach so many different curriculums was a huge challenge. My students no doubt felt my classes were strangely chaotic at times as I struggled to adjust, but this is why I believe it was their hard work that made this year successful more than my own efforts. My students helped me in so many ways, from volunteering to help at Speech Clinics to being 英語係, or "English Representatives." I asked my students to do some demanding work this year, basically giving them an outline and an incomplete vision and asking them to fill in the blanks. I wanted students to explore real-world issues, challenge their opinions, and form their own vision for the world, communicating their ideas and opinions using English; I couldn't be more proud of the results. Inside and outside of class, most of them met or exceeded all of my expectations! Keishin is an exceptional school, and it has many assets in its teaching and administrative staff, but its greatest strength, in my view, is the student body. For students and teachers, there's always so much to do and so very little time to do it, but working together we can accomplish great things!

※日本語訳はHPに掲載しています



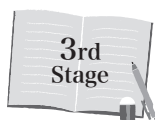
<http://www.keishin-ug.ed.jp>

Keishin's Strength 慶進の強み

この一年は私にとって初めてづくしの一年でした。常勤となり最初の一年であり、授業でもたくさんすることに初めて挑戦しました。そして、生徒たちと深く関わり、彼らのことをここまで知ることができたのも、今年が初めてでした。

そして今思います。生徒たちの頑張りに私は本当に驚かされ、感心させられました。中学生に高校生、そしてグローバル、アドバンス、中高一貫の3コース全て、約430名の生徒と授業で関わりました。それほど様々な授業を担当することは私にとっては大きな挑戦でした。そんな状況にこちらが慣れるまでは、慶進生の皆さんも時に混乱することがあっただろうと思います。しかし今年一年、私一人の努力では出来ないほどの成功を修めることができました。それは子ども達が懸命に取り組んでくれたおかげに他なりません。慶進生は多くの場面で私を助けてくれました。小学生対象のスピーチクリニックではボランティアとして参加してくれた生徒もいましたし、英語系の皆さんは日々の仕事をしっかりやってくれました。授業では、子ども達には多くのことを求めてきました。大まかな計画、目標だけを提示し、細かい方針、すべきことなどは自分で考えるよう言いました。生徒の皆さんには、英語を駆使し、実際の社会問題に関して探究し、自分の意見を深め、世界に対して自分自身のビジョンを持ってほしいと考えました。彼らの成果を見ると、これ以上ないものとなりました。授業の内外を問わず、ほとんどの慶進生が私の期待に応え、そして超えていきました。慶進は他にはない特別な学校で、多くの優秀な教員もいます。しかし、慶進の最大の強みは生徒全員だと私は思います。慶進では生徒も教員もやるべきことがたくさんあり、時間も限られています。そのような中でも、皆で共に励むことで、私たちは大きなことを成し遂げることができるはずです！

デリック・ラモント・ニコルズ



大海を知り、見つけた世界との違い

「井の中の蛙大海を知らず」という言葉がありますが、世界に飛び出し、視野を広げると自分の価値観が揺さぶられ大きく成長します。慶進では中三の時にオーストラリア語学研修(希望者)と高3の時にマレーシアシンガポール海外修学旅行と二度海外を経験する機会があります。しかし、慶進生にはもともと世界に赴き、成長して欲しいと思います。そこで、今回は文科省の進める「ビタター留学」の制度を利用してニュージーランドに留学した10期生丹下櫻子さん(高三)と「山口県高校生短期留学プログラム」を利用してオーストラリアに留学した10期生入江夏帆さん(高三)に留学について教えてもらいました。

今回、世界に出て行ったという共通点で二人に集まってもらいましたが、海外経験を教えてください。

丹下 私は、高二の夏二ヶ月ほどニュージーランドに行っていました。それと、学校行事の語学研修と修学旅行でオーストラリアとシンガポールへも行きました。

入江さんはどうですか？

入江 中三の夏に行くオーストラリア(語学研修)中三の冬にカナダ。高1の夏にオーストラリアに、シンガポールの修学旅行に行きました。

二人ともいくつかの国へ行っていますが、日本と海外を比べた時に海外に行って衝撃を受けた事は何か？また印象に残っていることなどありますか？



丹下 衝撃を受けたことは、ニュージーランドの高校で授業を現地の学生と一緒に受けたのですが寝転がって授業を受けているクラスがあったり、問題を正解したらカップケーキあげるよと言われたり、とにかくみんなが楽しそうに授業を受けていることにすごくビックリしました。

入江さんはどうですか？

入江 経験された先輩方もよく話されますが、食生活の違い、生活環境の違いはもちろん、私は三回くらいホームステイしていますが、コミュニケーションを取るの簡単ではなかったです。特に一回目は、自分が思っていた以上に話せなくて……。ただ、回数を重ねるうちに話せるようになりまし。

入江さんは「山口県高校生短期留学プログラム」の「高校生留学支援事業補助金」を使って、高1の夏にオーストラリアに行かれましたがなぜその制度を利用してオーストラリアに行こうと思ったのですか？

入江 過去二回行って、それがとても楽しかったのと、自分の世界を変えたい、もっと活かせるようになりたいと思ったのと、将来、薬剤師になりたいと考えて

いるのですが、これから東京オリンピックなど、海外の方が増えてくる中でコミュニケーションや説明がスムーズに取れるようになりたいと思ったからです。そうした意識を持って行ったオーストラリアはどうでしたか？

入江 ホストマザーの友人に韓国人の薬剤師の方がいて、オーストラリアの大学を卒業して、薬剤師として働いていることを聞きました。母国語でもないのに英語を使って働いているのがすごくカッコイイと思いました。

丹下さんは「飛び出せ留学ジャパン」を使ってニュージーランドへ行ったのですがなぜニュージーランドへ行ったのですか？

丹下 この制度は、ほぼ全額負担してくれる制度で、私は観光方面に興味があり、ニュージーランドの学校にはツーリズムという科目が国・数・英と並んであり、英語で受けてみたいと思い行きました。

ニュージーランドの何という都市に行きましたか？

丹下 クライスチャーチという都市でパバマイハイスクールに通いました。

学校の印象はどうでしたか？

丹下 問題に正解するとお菓子が出てきたり、基本的にすごく褒めてもらえることや、とくにびつくりしたことは、学校の敷地が広く、移動が大変で体育の授業にはほぼ毎回遅刻していたにもかかわらず、怒られるどころか「良く来たね」と言われ驚きました。

海外を色々見てきた結果「リダー」として社会で活躍するためにはどんな人にならなければいけないと思いましたか？

丹下 自分の意見をきちんと言える人。自分の国のことを知らないといけないと思いました。グローバル化と言われ、日本ではどうなのかと聞かれて答えられないので自分の地域のことを知った上で話せる人がリーダーだと思いました。

入江 積極的に自分からコミュニケーションを取れる人。最初は馴染めなかったけど段々会話を重ねていくうちに最後の方ではコミュニケーションが取れ、友達ができて、ホストファミリーとも仲良くできました。自分が動かなければ周りは助けてくれない。自分から自発的に行かないとダメだと分かりました。

二人とも海外に行ったからこそ得るものはあったと思いますか？

丹下・入江 はい。ありました。海外に行って後輩にどんなことを経験してほしいですか？

丹下 失敗とか上手くいかないという経験をしてほしいです。日本ならテキストをやって時間が過ぎたら授業で終わりますが、向こうでは一時間に一回くらい意見を聞かれます。それが最初すごく苦しくて。そんな上手くない時に周りに意見求めたら助けてくれる。そういう経験をしてほしいです。その結果私は積極性が身につきました。

入江 ただ英語をしゃべるようになったり、これから行くとかじゃなく、その国を知って、自分の国も知ってより自分の知見を広げるためにとか、行ったら得るものはすごくあるので視野を広げて色んなことを自分の中に吸収しようという気持ちで行ってほしいです。



▲10期生 丹下 櫻子(高三)



進学羅針盤

GLP（グローバル・リーダーズ・プログラム）は、世界の色々な分野でリーダーとして活躍できる人材を育成する目的で、中学校1年生～高校1年生まで計画的に進めていく学習です。

中学校1・2年生では校外学習について、中学校3年生では修了論文、高校1年生では大学で研究したいテーマについて、それぞれ調べ学習→資料作成→プレゼンテーションを行います。「自分の興味・関心から決めたテーマについて考察を深め、わかりやすくまとめて発表する」という軸は共通しています。年を追うごとに学習が深まり、プレゼンの仕方もレベルアップしていきます。身の回りから出発した興味も、調べていくうちに視野が広がり、考えが深まり、「思考力」がついてきます。発表の仕方も、どうすればよりよく人に伝えられるかを考えて工夫し、資料作成、原稿の執筆、実際のプレゼンを通して「表現力」が鍛えられていきます。これらは2020年度開始の新入試でも求められる力であり、大学で行う学問や社会に出て職業を持ったときに活かせる力になるのです。

修学旅行論文

ディズニーシーを効率よく楽しむ方法

Q1 なぜそのようなテーマにしたのですか？

自分で考えることが好きなので、ネットで検索できるようなものではなく、自分で経験したことから考えていけるようなテーマにしました。

Q2 調べたことについて簡単に教えてください

せっかくディズニーシーに行くのだからたくさんのアトラクションに乗れたほうがいいと思いました。いろいろ調べて効率よくまわったつもりでいましたが、さらに上をいくグループがいたので自分の経験もあわせてより効率よくまわるルートを考えてみました。結論を言うと、早い時間のファストパスを取れるかどうかでまわるアトラクションの数が決まる。今回11:00～21:00の時間帯で5～6個まわったが、効率よくまわれば7～8個のアトラクションを制覇できることが分かりました。

Q3 今後は何について調べたいですか？

数学のことについて本で調べたり、数学者の論文を読むことが好きなので、数学について研究したいです。

Q4 今頑張っていることや将来の展望教えてください

日頃の勉強はどの教科も過不足なくやっています。とにかく数学が好きで、白紙に図や公式を自分で構成し、導き出そうとしています。数学の美しい世界を創ることにとっても興味があります。



13期生
藤井 陽嗣（中三）

門司レトロフィールドワーク発表会

外国人観光客の行動の違いからみる文化

Q1 なぜそのテーマにしようと思ったのですか？

「門司港レトロフィールドワーク」で、想像以上の外国人観光客の方を見かけて「なぜ、こんなにたくさん日本に来るのだろう?」と疑問に感じたのがきっかけで、調べてみました。

Q2 調べてみてどうでしたか？

たとえば「中国からの観光客は76.3%が銀座で『爆買い』をしている」とか、「インドからの観光客は、都市部にしか行かない人が多くて、リピーターが少ない」とか、それぞれの国の人によって特徴みたいなものがあります。

Q3 その違いはどこから？

中国の人たちは「家族」の範囲が広いんです。血がつながっている人みんなが「家族」で、お互いにごく親密な関係にあるので、お土産もたくさん必要になるみたいです。インドの人たちの場合は「食べ物」です。ベジタリアン専門の飲食店は東京に381店舗（東京都全体の飲食店総数約8万店舗）です。すごく少ない。大阪や京都のような観光地でも合わせて170店舗しかないんです。山口県は、わずか3店舗。これだと、インドの人たちは本当に不便です。そんな、家族に対する考え方や食べ物の違いは、文化の違いということです。現在のグローバル化の中で、文化の違いというのは、カルチャー・ギャップと言われていて、お互いに違いを認め合って、尊重し合うことが大切なんだと分かりました。さらに外国の文化を知ること、逆に日本の文化を知ることにも繋がってくると思います。

Q4 次に研究してみたいテーマは？

音楽が好きなので、いろいろな国の音楽や民族音楽などについて、なぜこんなメロディでこんなリズムなのかなどを調べて、日本独特の音楽と比べてみたいです。人間の行動もそうですが、音楽のような身近にあるものからお互いの文化の理解が始まるのではないのでしょうか。



14期生
岸根 莉子（中二）

中高一貫コースではグローバルリーダーズ・プログラム（GLP）のもと、様々な行事を行っています。同じ授業を受けていてもこんなに興味関心が様々に分かれるのかと思うほど、生徒の皆さんが設定するテーマは多岐に渡っています。学校で学んだ知識を掘り下げることで、世の中にある様々な問題に気づき、人の発表を聞くことで多くの考え方や解決方法があることを知る。そしていつか、それぞれの分野で世界に羽ばたき、社会に貢献できる人材を育てること。それがGLPの目的です。今回はGLP発表会を終えた慶進生の生の声をお伝えしたいと思います。

世界に
羽ばたけ

卒業生にも聞いてみました！

中高時代の夢について教えてください？

中学生の頃は、とにかく動物が好きで、動物に関わる仕事がしたいと思っていました。高校生になり進路を決めなければならぬ時期に、親からは医師になれと言われていたのですが、どうしても嫌で、親との話し合いの結果、資格が取れる動物関連ではトップの獣医師なら良いと言われたことから獣医師を目指し始めました。獣医師について調べていくうちに、診療だけではなく食品や衛生、立法に関わる獣医師も沢山いるということを知り、獣医師のなかでも食品衛生や国際的な仕事に興味を持ちました。現在世界で起こっている問題を少しでも解決するために、人と動物の懸け橋になりたいと思っていました。

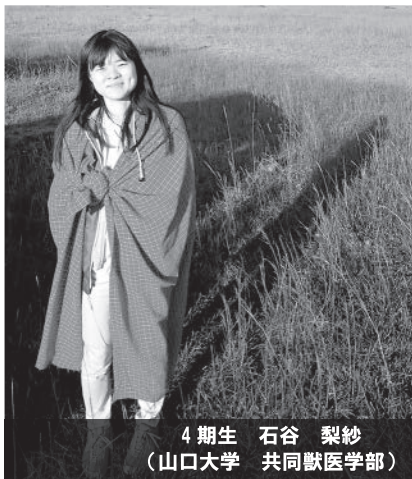
大学で努力したことは何ですか？

獣医学を学ぶにつれ、思っていたことと違うことは多くありましたが、私自身、高校のときに抱いていた夢は変わりませんでした。研究室配属に伴い、どうしてもその教授が良かったので、生徒は取らないと噂されていた教授へ頼みに行き、その教授のもとに配属されることとなりました。そこは食品衛生と疫学を主に研究している、獣医では珍しく厚生労働省系の分野になります。現在は授業・実習・就活等の合間をみつつ食品衛生分野でずっと研究しています。また、獣医学とは別に、趣味の英語を生かし大学の留学生と仲良くなり、世界 30 カ国以上の友達が出来ました。また、大学の制度を生かし、海外の獣医大学に実習（短期留学）や、プライベートでも色々な国に行き、海外の動物の施設や野生動物を見ました。

これからの進路について教えてください？

今後の進路としては、厚生労働省勤務、国際機関勤務、海外の動物病院勤務、院で博士号取得等の選択肢を考えております。どちらにせよ、国際的に働くことになると思います。

国際協力なしでは防疫も出来ない時代なので、獣医として世界で少しでも役に立ちたいです。



4 期生 石谷 梨紗
(山口大学 共同獣医学部)

GLP 発表会 インタビュー

修了論文発表会 焼 杉

Q1 なぜ焼杉について調べたのですか？

家をリフォームするテレビ番組で焼杉のことを知りました。そこでは外壁に使われていた杉板を焼くことで焼杉にして再利用することで、腐食を防ぎ、長年使えるようにしていました。再利用もでき、シンプルですが、飽きさせない見た目もカッコいいことに魅力を感じました。そこからは古き良き日本の伝統を感じることができます。

Q2 修了論文で徹底的に掘り下げて調べ、魅力的、インパクトがあると感じた点は何ですか？

主に以下の3点です。

- ①表面の炭化層の恩恵により、木なのに虫にくわれにくく、耐火性がある。
- ②3枚の杉板を三角柱に組み、煙突の要領で上昇気流を利用しながらダイナミックに焼く作り方。
- ③100年以上もメンテナンスがいらぬ。

現在壁材として多く使われているモルタルと窯業サイディングと比較しながら焼杉の特徴を研究しました。

Q3 調べた結果、焼杉についてどのような提案が出来ると思いますか？

古民家の再生で焼杉が活用されていくと良いと思います。また、新築でも、漆喰との組み合わせで暗い印象を与えずモダンでカッコいい外観を実現できるはずです。

Q4 将来についてどのように考えていますか？

今回掘り下げて研究したことで建築士という職業への興味は更に強まりました。一方で、何かをしっかりと掘り下げて研究することは、その魅力をより深く理解することだと知りました。同時に、他にも掘り下げて見れば、興味の幅が広がるのだということも実感しました。現在は建物探訪など建築関係の番組は録画して観ています。建築士やデザイナーなどの仕事は凄いと感じています。



12期生
村田 涼風（高一）

SERIESⅧ The Talking with schoolmate...

数学科

笹川 剛先生

太田 侑吾

神戸大学
医学部医学科

縄田 開吾

山口大学
医学部医学科

山崎 奈波

山口大学
医学部医学科

山崎 綾乃

山口大学
医学部医学科

同窓生

平成29年度卒業

9期生の慶進

桜がだいぶ開いてきました。もうすぐ新生活が始まります。卒業した9期生は言うまでもなく、在校生の皆さんもそれぞれ変化の時期を迎えていますね。

六年前の今頃は私も新生活でした。一ヶ月前に3期生(高三)を送り出し、新たに9期生(中二)と出会うことになったのです。激変というやつです。環境が変わると不安になったり、落ち着かないことがたくさんあるもの。私もこういう時期は心(ー)や顔つき(ー)がかなり揺らぎます。自分のペースに落ち着くまでは少ししんどいものですが、何事も自分なりに少しずつ前進できればいいのではないのでしょうか。無理をするのではなく、それでいて楽をするのとはちよつと違う、『挑んでいくことを楽しむ』ことができれば。

私が自分の仕事を楽しいと思える(ー)ようになったのは、大学を卒業し社会に出てしばらく経つてからのことです。それまでの私は、先輩に言われたことを言われたようにやるだけだったわけですが、携わる業務の一部を自分が担っていく、責任を持って取り組んでいく、ということを理解してから世界がまったく違います。もちろん難しいと感じることが山のように姿を現しますが、それも同時に。大切なのは、そこに自分が関わっているということを感じること。知らない誰かが、はたまた見えない何かが良い結果をつれてきてくれることは絶対にありません。何をどうしたって自分の積み重ねた行動が結果を作り上げていくのです。そのために自分ほどれだけのことができるのか、という挑んでいく感覚です。いろいろな初めては不安だし心も折れますが、まっすぐ立ち向かえば、結果以上の自信と勇氣が残ります。何年か経ってその経験に自分の背中を押されることもきっとあります。

というわけで皆さん、新生活が始まります。

担任 笹川 剛

大学進学おめでとうございませう。みなさん医学部医学科へ進み、将来は医師として活躍することになります。そこで、そんなみなさんの慶進での六年間とこれからを教えてください。

慶進の六年間の 思い出は？

太田 やつぱり高三の慶進祭が思い出ですね。委員長として指導的な立場で参加することは、それまでにない形でのかかわりだったのでもって新鮮でした。僕たちはチャールズを出店しましたが、そのための業者さんとのやりとりや、クラスメートをとめるのが大変でした。それでも六年間の仲間との集大成として、みんな楽しもうというベクトルがとてよかったと思います。六年間だからこそですね。

縄田 個人的なことではありますが、高一の時に英語弁論大会の中国大会に出場できたことです。人生で初めてちゃんとした賞をもらいました。大会後のパーキン先生とのアイスクリームもよい思い出です。

山崎綾乃(以下、綾乃) オーストラリアの語学研修ですね。初のホー

ムステイで、自分の知らない、奈波もない環境が最初は怖かったけど、途中からすごく楽しくなりました。日本ではできないことをいっぱいできたと思います。

山崎奈波(以下、奈波) 高二のシンガポール・マレーシアへの修学旅行が思い出に残っています。やつぱり海外っていうのもあるし、初めて友達と行く海外はとっても楽しかったです。

慶進の六年間で 学んだことは？

太田 人と知り合うことがどれだけ財産かということを学びました。慶進に来て、九期生と出会い、ずっと一緒にやってこられてよかったと思うことが多々ありました。九期生と卒業して離れ離れになっても、これからも付き合っていきたいと思っています。

縄田 確かに。僕もみんなといろいろで精神的に強くなりました。センター試験で失敗して、結構きつかったけど、九期生とふざけていたら、辛さを忘れることができました。そんな中で最後までがんばることができました。

綾乃 そして、みんな落ち着いて大人になりましたね。

奈波 みんなが自分のしたいことをみつけたことが成長じゃないでしょうか。

将来はどんな医師に なりたい？

縄田 がん研究に携わりたいです。父ががん研究に携わり、いろいろ知っていたこともありまして、自分が開拓して多くの人を救いたいですね。

奈波 私のがん研究に関心があります。身内にがんを患った人がいて、がんを研究したりする人がいて、がんが身近でした。自分ががんを治したいと強く思いました。

綾乃 私もがん研究に関心があります。免疫の方から考えたいですね。高一のテーマ発表会で免疫について発表したことがきっかけです。免疫は自分の体の中にあるものだから、他の治療よりは副作用を少なくし、苦しみが少ない治療法として確立できるのではないかと考えています。

太田 功績や名声ではなく、淡々と医療行為に従事して、直接的・

間接的に多くの人を救いたいですね。それは都会でもいいし、田舎でもいいです。医師免許の問題もあるかもしれませんが、海外でも多くの人を救いたいですね。

後輩へのメッセージ

太田 多くの人と話し、理解を深め、後悔のないように積極的にかかわって欲しいです。

縄田 後期試験までしっかりとがんばったのがよかったと思います。最後まであきらめずに、たのしくがんばって欲しいです。そうすることが悔いのないことにつながります。

奈波 私は推薦で受験しましたが、たくさん先生や友達に協力してもらって、合格しました。だから、一人ががんばらずに、多くの人を頼ってがんばってください。

綾乃 学校生活を楽しくしてください。みんな決めて、何かをするというのは高校だけかなって思いますが、大学に入ったら、好きな人だけが集まります。でも、高校はそうじゃない。小学校の先生が高校生活は楽しいと言われていましたが、その通りだと思うので、悔いがないように楽しんで欲しいです。

平成30年度 | 大 | 学 | 合 | 格 | 実 | 績 |

中高一貫コースの主な合格先 ()は医学部医学科 3月27日現在

北海道大学	3名	山口大学	11名(5)
千葉大学	1名	九州大学	4名
大阪大学	2名	慶應義塾大学	1名
神戸大学	2名(1)	東京理科大学	4名
岡山大学	1名	明治大学	4名
広島大学	3名	※詳しくはHPをご覧ください。 http://www.keishin-ug-ed.jp	

La photo de Keishin

未来のリーダー



日本を飛び出し、世界を経験してきた高校2年生。世界に挑戦し、自分の可能性を広げようと志す中学1年生。慶進という学び舎に集う先輩と後輩はいつでもつながることができます。リーダーシップをとる先輩の姿に憧れ、自分自身もその姿に一步一步近づいていく姿は本当に頼もしく、そしてこの場所から世界を変えていくリーダーが育まれていくことにいつもワクワクしています。

| お | 知 | ら | せ |

■平成30年度 行事予定

6月23日(土)	学校説明会①
7月14日(土)	学校説明会②
8月26日(日)	学力診断テスト
10月20日(土)	入試説明会①
11月17日(土)	入試説明会②

慶進でお会いするのを楽しみにしています。



第11回 小さな本箱

英語科 国分 裕昭先生のおすすめ

「夕餉 (A Family Supper)」

カズオ・イシグロ

この作品は、二〇一七年にノーベル文学賞を受賞した、カズオ・イシグロの短編小説です。彼は長崎県出身ですが、幼少期以降はイギリスで生活しています。そのためか、日本語を話すことはなく、公の場でも専ら英語を使用しています。日本語での質疑応答を提案されても「日本語が上手くないので」と断ったそうです。彼は「日の名残り」に代表される長編小説が有名ですが、今回紹介するのは数少ない短編小説です。

この作品で描かれているのは、主人公が日本に帰ってきた日のことが淡々と記述されています。しかし、主人公とその父親、そして妹の久々の再会にもかかわらず(いや、だからこそ?)会話はどこかぎこちないものです。何か教訓めいたものがあるわけでもなく、タイトルにもなっている夕餉の場面を軸として彼らの一日を描写しているだけです。

この作品は、私が大学三年生の時に大学の授業で読みました。それまで、長文を読むということは問題を解いたり、書かれている内容を理解することという程度でしか捉えていなかった私

に、読むことの楽しさを教えてくれたのがこの作品です。

この「読むことの楽しさ」というのは「小説が私達の知らない世界に連れて行ってくれる」というものではありません。私の知った「読むことの楽しさ」とは、作者が使用した表現に込めた思いを読み解く楽しさです。英語で書かれた作品では「see」という単語がふんだんに使われています。この単語を辞書で引くと約三十の意味があるのですが、カズオ・イシグロはそのいくつかを使い分けてこの作品を書いています。それぞれの「see」に、文脈や前後の表現を基に意味を定めていくといくつかの解釈ができるのです。何もない日常に隠された事実(らしいもの)に気づいた時、私は今でもハッとしたのを覚えています。このような複数の解釈ができる読み方は原文ならではです。原文だからこそ味わえる深みや面白さをぜひ皆さんもいろんな英語の本から読み取ってみてください。